



司会を務める平田さん(左)と多田さん(右)

舞台上で挨拶する「二十歳のつどい」実行委員会

誓いの言葉を述べる宮崎さん(左)と、嶺尾さん(右)



まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

521人 晴れやか笑顔

二十歳のつどい

二十歳になった人の門出を祝う「二十歳のつどい」が1月12日、文化センターで開催。振り袖やスーツに身を包んだ521人が、晴れやかな笑顔で旧友との再会を喜び合いました。式典は、市内で活動する和太鼓サークル「どんと鼓・木月」

による力強い演奏で盛大に幕開け。続いて川田市長と太田議長から新成人にお祝いの言葉が贈られました。また、参加者を代表して嶺尾晏那さんと宮崎菜歩さんが登壇。支えてくれた家族や先生、友人への感謝を述べ、「多くの

方々の支えは決して当たり前のもではなく、一つひとつがかけがえないもの」と振り返り、「これからの出会いや経験のすべてを自分の力に変え、目標や夢に向かって前へ進み続けることを誓います」と誓いの言葉を述べました。式典後は学生時代の恩師を招いた「二十歳を祝う会」を開催。記念写真をとったり、思い出話に花を咲かせたりと、二十歳を迎えた人生の門出を祝いました。



青空に向けて一斉放水する消防団員ら

一斉放水 虹に歓声

消防出初式

1月11日、八幡市民スポーツ公園で、今年一年間の防火と防災を誓う「消防出初式」を開催しました。本式典は「災害に強いまちづくり」と士気高揚を目的として実施。消防団員、女性防火推進隊員、消防職員計238人と消防車両が一堂に集結しました。消防団員らによる一糸乱れぬ行列行進からスタート。式典では、市長や団長たちからの式辞や、多

岐にわたり地域防災に貢献した消防団員らの表彰も行われ、長年の功績を称えました。また、消防の仕事に興味を持ってもらおうと、今年から新たに消防車両の展示も実施。救助工作車や救急啓発車など特色ある3台が並び、多くの子どもたちでにぎわいました。式の締めくくりには、火災ゼロをめざし、また、その願いを込めて、小型ポンプ計8台とはしご車からの一斉放水も実施。青空に水のアーチを描くと同時に色鮮やかな虹が出現するなど、来場者からは歓声が上がっていました。

「よりよい市」小中高生が提言

子ども会議

子どもたちが、よりよい社会をめざして自分の意見を表明し、本市の課題解決を市長や市議会に提言する「子ども会議」が1月17日に開催。今年も市役所の議場を使って、市内小中高生が特産品や環境問題、防災等について市へ提言しました。立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携している同会議は、今回で22回目。委員30人が5班に分かれ、昨年6月から調査や討議を重ねてきました。ある小学生班は、普段の生活で

感じた不法投棄の課題を注意看板に着目し発表。「子ども目線で大人の心に訴える」看板のデザインと、市の財産となるような資源の有効活用を提言。また、中学生班は、放置竹林と防災、避難所問題という多岐にわたる課題に対し、八幡の竹を使って「ゲル」と呼ばれるモンゴルの伝統的な住居をベースにしたテントを作ることを提言。川田市長や市議会議員は「よりよい八幡市にするため、一緒に考えていきたい」と話しました。



市長や市議会に提言する中学生班

今月のこの人

二十歳のつどい実行委員「家族や友人に感謝を伝えたい」



二十歳のつどい実行委員。男山第二中学校出身。現在は大学の工学部で海洋システム工学を学ぶ。市内在住。

玉置桂汰さん

「今ある自分の環境や生活は当たり前ではない。いつも支えてくれている家族や友人に改めて感謝を伝えたい」と、思いを語る玉置さん。玉置さんは、中学生の時に生徒会長とサッカー部のキャプテンを歴任。メンバーの多様な意見に耳を傾けつつ、納得できる案を模索し続けた当時を振り返り、「苦勞した分、

率先して発案や提案することに抵抗がなくなった」と自身の成長を話します。現在は大学の勉強に没頭しており、「子どもの頃から好きだった海の研究の道に進んでみたら奥が深かった。4回生からは、速く進める船の構造や、海の性質、環境面などの中から、自分の興味のある分野を見つけていきたいと考

えています。そして、社会に出たときに『やってよかった』という実感が湧くような研究がしたい」と、喜びや期待感に満ちあふれた表情で、決意を新たにしていました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。